会長からのあいさつ

2022 年 7 月 2 日(土)14:10～14:40

(会場:A会場　教室02-B1-02)

会長からのあいさつ

「会長退任のご挨拶」

西野 和典(太成学院大学 教授)

会長退任のご挨拶

西野 和典
太成学院大学
k-nishino@tgu.ac.jp

日本情報科教育学会は，2007 年 12 月に設立されました．2003 年 4 月に高等学校で情報科の授業が開始されて 4 年が経過していましたが，情報科設置の意義や趣旨が浸透していないためか，情報科の未履修問題も話題になるような状況でした．

「情報教育は必要，しかし情報科が必要？」と情報活用能力の育成は認めるものの,「情報活用能力は各教科の中で育成するのでは？」や「普通教育では，情報は手段．ワープロや表計算以外に何かすることがある？」などという捉え方が少なくないなか,「情報科（情報の体系的な教育）の中身」を問い，その教育について研究し議論する場が必要ではないか，本学会はそういう思いを持つ教員が集まり設立されました．

設立されて今年で 15 年目を迎えますが，その間に２回の学習指導要領の改訂が行われました．とりわけ，今回の学習指導要領の改訂では，2020 年度から小学校でプログラミング学習が必修化され，教科の授業や教科外の教育活動において，時間を確保してプログラミングを体験させながらプログラミング的思考の育成が行われています．2021 年度から中学校で，計測・制御のプログラミングに加えて，ネットワークを活用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングの学習が行われるようになりました．

2022 年度からは，高校の情報科において，卒業後の進路を問わず，情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが重要とされ，すべての高校生を対象に共通必履修科目として「情報 I」を学ばせ，さらに選択科目として「情報 II」を積み上げることになりました．モデル化とシミュレーション，プログラミング，情報デザイン，情報システム，データサイエンス等，情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動が行われます．そして，ついに，2025 年度大学入学共通テストから「情報Ｉ」が単独の試験時間帯（60 分）で導入されることになり，今年１月には，国立大学協会が，全ての国立大学は大学入学共通テストにおいて，原則としてこれまでの「5 教科 7 科目」に「情報」を加えた６教科８科目を課すことを基本方針とすることを発表しました．

このように，ずいぶんと「情報科の中身」に焦点があたるようになってきました．本学会を設立した 15 年前の状況を思い出すと隔世の感があります．

もちろん，突然「情報科の中身」が注目されるようになったわけではありません．この間の情報技術の急速な進化，それを基盤にする産業の革新，求められる資質・能力の変化など，さまざまな社会的要因が関与していますが，学校での情報科の日々の実践や研究など,「情報科の中身」に関わるすべての関係者の行動や思いの集積が，少しずつこの変化を生じさせてきたのだと思います．

本学会も，日本で唯一の「情報科の中身」を専門に追究する学会として，活動し続けてきました．毎年，全国大会（夏），研究会（春・秋の 2 回），フォーラム（冬）を開催し，研究発表や議論の場を設けています．また，地元の先生方が学会活動に参加しやすいように，４つの支部を設け，各支部独自で研究会を開催したり，情報交換の場を設けたりしています．また，年 2 回の研究会やこの全国大会においても，各支部の皆様が担当委員会と連携して準備をしていただいています．

全国大会とフォーラムでは，文部科学省の情報科担当官，情報学の研究者，学校現場の情報科教員，情報科関連の企業や NPO 等の皆様に登壇していただき,「情報科の中身」について提案や議論をしていただき，その内容は学会誌，Web ページ，ニューズレター等で発信しています．また，情報科のカリキュラムの提案や大学入試への情報科の導入についての要望書を文部科学大臣に提出したり，学会の Web ページで発信するなど，学会の意思を表明する活動も行っています．2020 年には学校現場での実践的研究を支援する目的で「JAEIS 基金」を立ち上げ，昨年から，幼児教育および初等・中等教育に所属する先生方を対象に「実践研究助成事業」を開始しています．

このように本学会は,「情報科の中身」を問い続けています。私は，１期〜４期まで学会副会長，そして６期・７期は会長として，皆様と共に学会に携わって参りましたが，このたび会長を退任いたします．この場をお借りして，お世話になりました皆様に衷心より御礼申し上げますとともに，森本新会長のもとで,「情報科の中身」を問う本学会が益々発展していきますことを願っています．